

横浜教区 宣教委員会

みっしょん通信

-横浜教区青年会特集-

2025年 11 月発行 No.7

横浜教区宣教委員会ニュースレター『みっしょん通信』第7号をお届けいたします。今号では、2022年に発足した「横浜教区青年会」に焦点を当て、特集を組みました。

教区内では少しずつ活動の輪が広がり、各教会の若者たちがつながりを深めています。信仰の歩みを共にし、祈り合い、支え合う青年たちの姿の中に、わたしたちは教会の未来の希望を見出すことができます。教会にとって青年は、単なる「次の世代」ではなく、すでに今ここにある「教会そのもの」です。彼らの感じていること、悩み、そして信仰へのまなざしを知ることは、私たち全体の信仰共同体の豊かさを見つめ直すきっかけにもなるでしょう。今回の特集を通して、教区全体で青年たちの声に耳を傾け、共に祈り、支え合う歩みを新たにしていきたいと願っています。皆さまのご関心とお祈りを心よりお願い申し上げます。

横浜教区宣教主事
司祭 パウロ 窪田真人

青年会の活動を振り返って 「発足当時の青年会」

横浜教区青年会
会長 アントニオ 片山 修

2022年7月の発足から3年が経ち、4年目が始まった横浜教区青年会。伝道と奉仕を目的とし、青年を教会に連れてきて教会を元気にしたい。若者の力を活用し、バザーやキャンプなどの手伝いをする。若者が来やすい教会づくりとして学生向けのイベントや日曜学校のお手伝い、SNSでの発信など若者が興味を持ちやすいようにし、教会へ来るハードルを下げ若者がたくさん来る教区になってほしいということをお願い活動を始めました。具体的な活動内容とし



【発足当時の青年会】
左から片山(克)聖職候補生、片山 修さん、
小林恵介さん

て、4つあります。



一つ目は、教会訪問。毎月1回教区内の教会へ行き、聖餐式に参加し、信徒の方々と交流した後、草刈りや掃除、バザーのお手伝いなど奉仕できることがあればお手伝いしました。

二つ目は、キャンプスタッフ。県下の小中サマーキャンプや、中高生キャンプ、教会の日曜学校主体のキャンプなどにスタッフとして関わりました。青年会メンバー以外にも昔キャンプに参加していた青年にも声をかけ、スタッフとして参加してきていました。最近では青年が主体となって運営するところも増えてきています。

三つ目は、ボランティア。九十九里ホームにお願いをして施設ボランティアをさせていただきました。ご飯の配膳や片付け、利用者さんたちとお話するなど様々な体験をさせていただきました。

四つ目は、他教区交流。全国青年大会やU26集会など全国規模の青年が集まるイベントに参加者や運営スタッフとして関わりました。自分たちの教区では青年活動をどのように行っているかを共有し、特に東京教区とはお互いに青年会の活動に参加し交流することができました。他にも夏に開催された日韓青年交流会にも青年会メンバーや青年たちが参加し、韓国の青年の方々が日本を訪れた際は、グループに分かれ教会に泊まり聖餐式に参加して信徒の方々と交流することができました。



また、2023年に清里で行われた宣教協議会という貴重な機会に青年会から2名参加させていただき、他の教区の青年だけでなく信徒の方々や聖職の方々とお話しすることができ、日本聖公会全体の青年に関する現状を知ることができました。

活動を続けてきて気づいたのは、キャンプやボランティア、交流する場には青年は集まるのに日曜の聖餐式では青年に出会うことが少なかったということです。アンケートを実施した際も、プライベートが忙しい人や仕事の関係で行けない人など事情は様々ですが、日曜に教会へ行けない人が多かったです。まず、教会と関わる機会がなく、知っている人がいなかったり、どんな場所かわからないなど教会へ行くことへのハードルが高くなっています。青年会ではまず教会へ来ることへのハードルを下げるためにも、メンバーを集め、キャンプやボランティア、交流会など様々なイベントを企画していきたいと思えます。また、SNSなどを活用し青年が集まる機会があることを若者へ発信していきます。今後の青年会の活動への応援、ご協力よろしくお願ひします。

(林間聖バルナバ教会信徒)

横浜教区青年会の活動と広報のしごと ——SNS でつなく “青年の信仰と奉仕” ——

横浜教区青年会
広報担当 十字架のヨハネ 小林 恵介

横浜教区青年会は、2022年7月に発足しました。私はその中で広報を担当しており、InstagramやFacebookを通して、青年会の活動や出会いを日々発信しています。発足当初からSNSの運用を始め、これまで中高生向けのイベントやキャンプ報告を中心に投稿を重ねてきました。

しかし、「各教会を訪問して青年同士のつながりを深めたい」という声を受け、青年会内で話し合いを重ねた結果、2024年3月から正式に教会訪問プログラムがスタートしました。現在はそれぞれの教会で奉仕活動や交流の機会をいただき、その様子を写真とともにSNSで紹介しています。

私は標高の高い清里の教会に所属しているため、直接の訪問にはなかなか参加できませんが、他のメンバーの報告を受けてSNSを通して教区全体に伝える役割を担っています。現場に行けないからこそ、「どの教会でも神さまの導きのもとに青年たちが生き生きと奉仕している姿」を言葉と写真でしっかり伝えたいと思っています。



藤沢聖マルコ教会日曜学校キャンプ

この夏、藤沢聖マルコ教会の日曜学校が清里でキャンプを行い、私も奉仕者として参加しました。担当は写真撮影とレクリエーションのサポート。子どもたちが自然の中で笑い、祈り、協力し合う姿に触れ、あらためて「信仰の種は、こうして受け継がれていくのだ」と感じました。

子どもたちがこれからどんな青年に、どんな信仰者に成長していくのか、とても楽

しみです。

青年会の SNS は、こうした出会いや喜びを可視化する“つながりの場”です。

投稿を通して、教会の外にいる若い世代にも福音の光が届くことを願いながら、これからも続けていきたいと思っています。

「あなたがたは、以前には暗闇でしたが、今は主に結ばれて、光となっています。光の子として歩みなさい。」（エフェソの信徒への手紙 5章8節）

（清里聖アンデレ教会信徒）

「青年会の銚子諸聖徒教会訪問」

横浜教区青年会
ニコラス 片山 克信

7月19日～20日に青年会のメンバーとして銚子諸聖徒教会に訪問、聖母保育園での行事の手伝いを目的に銚子へ赴いた。19日銚子到着後、早速聖母保育園のお楽しみ会のような催しでのお手伝いとして参加した。銚子自体幼少期から8年間住んでいたこと、引っ越した後も2度訪れた時以来であったが、教会や保育園自体は引っ越した時以来であったためとても懐かしい気持ちで満たされた。私が通っていた時には年長組でお泊り保育が行事としてあったが、コロナ後なくなったため、その代わりとして今回のような楽しい遊びや流しそうめん、スイカ割り、キャンプファイヤー、花火などのお楽しみ会のような催しが実施されており、今回その所々で、関わることができ、とても有り難かった。また保育園の職員の方々も昔と変わらない顔なじみの方でいっぱいであったことからとても懐かしく、当時の思い出を思い返すことができた。参加者であるひまわり組の子たちもとても元気かつパワフルであり、それだけで来てよかったと思える楽しそうな光景だった。また他に卒園生である日曜学校のメンバーも参加しており、とても有り難かった。私もその中では年齢層が上であったため時の流れを実感した瞬間でもあった。私自身実際に計画した側ではなく、用具運び



や焼きそばづくりなど、その場でできるお手伝いしかできなかったが、子どもたちの楽しそうな顔を見ただけでこんなにもうれしいのだと実感できた。

20日は教会で聖餐式に参列した。この日は日曜学校もあり、聖餐式兼日曜学校の礼拝という形で以前とは違った形だったが、とても懐かしい気持ちになれた。また小さいころたくさん支えてくれた信徒の方々にも久々に再会でき、ともに聖餐式をおさげできたことがとても有り難かった。終わった後は思い出話もしながら、建物内を見て回り思い出に浸ることができた。最後には聖母保育園の職員の方々と一緒にお食事をさせていただき、そこでもたくさんお話しすることができ、個人的に恥ずかしい思い出も振り返れたが、改めて今の自分がここまで成長できたのも皆さんのおかげなのだと感謝の気持ちでいっぱいになった2日間だった。

他のことではあるが、個人的に来てよかったと思えたのは、保育園の頃の幼馴染と連絡を取ることができたことや、後の千葉県下のサマーキャンプに興味を持ってもらい参加するメンバーが増えたことなど、違った方向で有意義な成果が得られたことも含め、密な2日間だった。

(市川聖マリア教会)